

令和元年度

第1回青少年意見募集事業結果

テーマ

若い世代に対する献血推進活動について

(提案元：厚生労働省)

意見受付期間

令和元年6月3日(月)～6月23日(日)

令和元年7月

主に自由回答形式の質問に対する回答を、回答の要点ごとに分析して集計し、分類ごとに主な意見を掲載している。意見の掲載に当たっては、必要に応じ、要約している。

第1回 若い世代に対する献血推進活動について（厚生労働省）

1. 設問

- 質問1-1 献血を知っていますか。
- 質問1-2 (質問1-1で「はい」を選んだ方) 知ったきっかけは何ですか。
- 質問1-3 (質問1-1で「はい」を選んだ方) 献血は16歳からできることを知っていますか。
- 質問1-4 (質問1-3で「いいえ」を選んだ方) 献血できると思っていた年齢を教えてください。
- 質問2 「はたちの献血」キャンペーンを知っていますか。
- 質問3 若い世代の献血を推進するために、国はどのような取組を行うことが効果的だと思いますか。
- 質問4 あなたは16歳以上ですか。
- 質問5① 質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方
- 質問5①-1 献血をしたことはありますか。
- 質問5①-2 (質問5①-1で「はい」を選んだ方) 初めて献血をしたきっかけと場所を教えてください。
- 質問5①-3 (質問5①-1で「いいえ」を選んだ方) 献血をしたことがない理由を教えてください。
- 質問5①-4 (質問5①-1で「いいえ」を選んだ方) 今後献血をしてみたいと思いますか。
- 質問5② 質問4で「いいえ(16歳未満)」と回答した方
- 質問5②-1 16歳になったら献血をしてみたいと思いますか。
- 質問5②-2 上記を選んだ理由を教えてください。

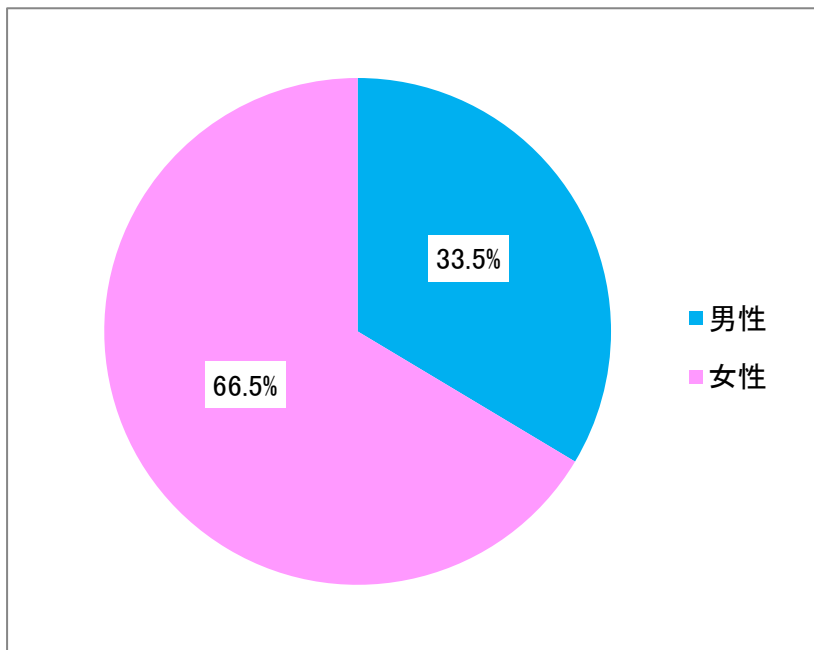
2. 意見受付期間

6月3日（月）～6月23日（日）

3. 回答者数・回答属性

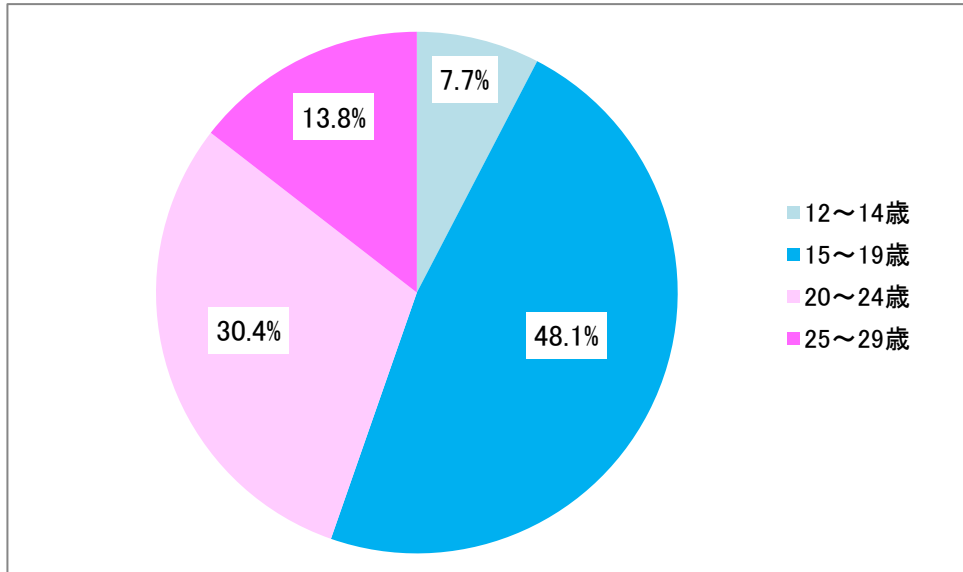
【回答者数】 男性：87名 女性：173名 合計：260名 （配信数：336名、回答率：77.4%）

【性別】 男性が33.5%、女性が66.5%であった。

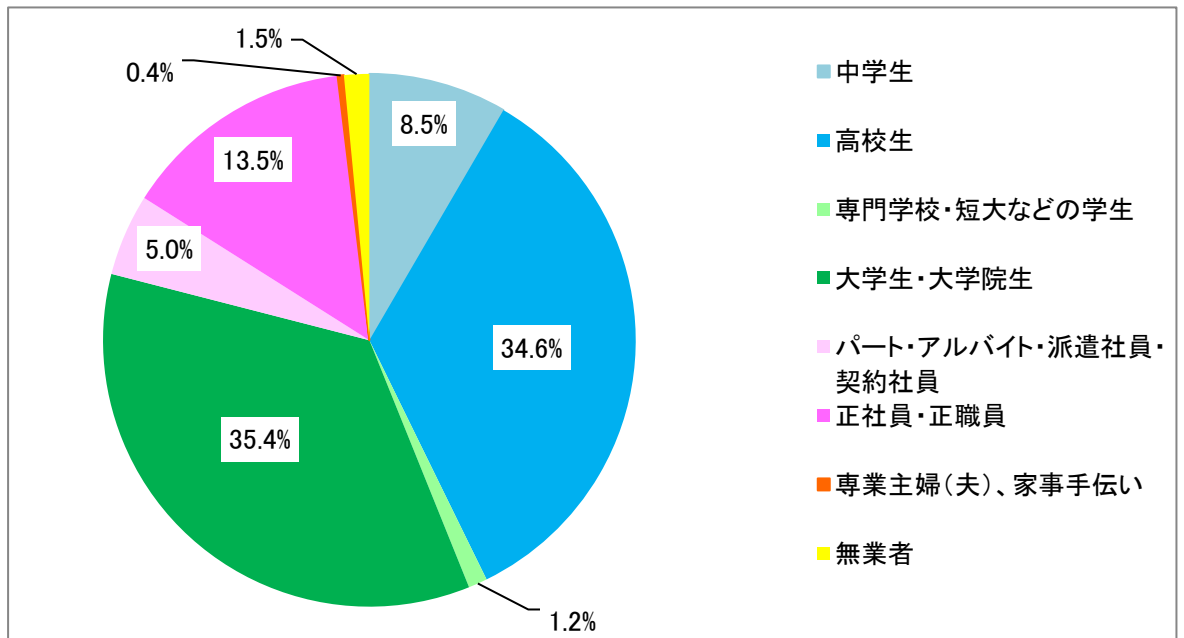


4 令和元年度 第1回青少年意見募集事業結果

【年齢】 12～14歳が7.7%、15～19歳が48.1%、20～24歳が30.4%、25～29歳が13.8%であった。

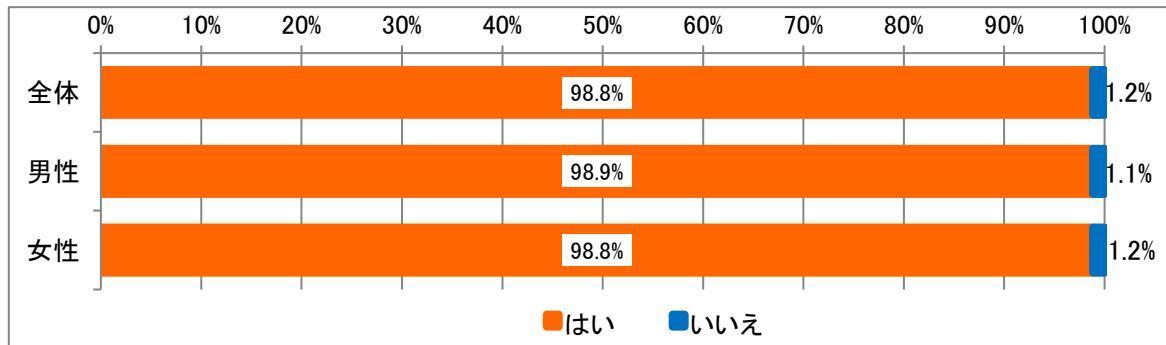


【職業】 中学生が8.5%、高校生が34.6%、専門学校・短大などの学生が1.2%、大学生・大学院生が35.4%、パート・アルバイト・派遣社員・契約社員が5.0%、正社員・正職員が13.5%、専業主婦(夫)・家事手伝いが0.4%、無業者が1.5%であった。



4. 集計結果

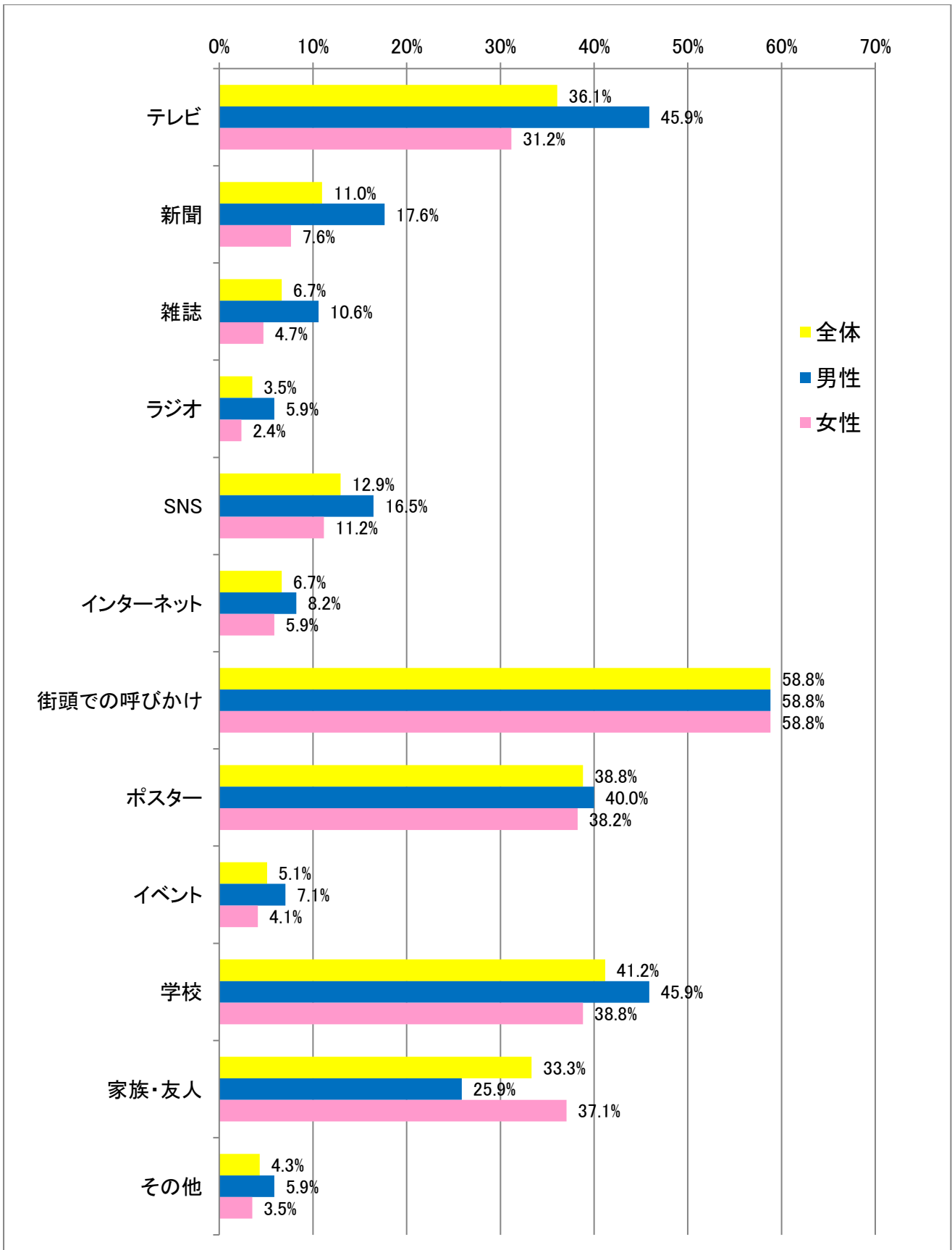
質問1-1 献血を知っていますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		260	257	3
		100.0%	98.8%	1.2%
性別	男性	87	86	1
		100.0%	98.9%	1.1%
性別	女性	173	171	2
		100.0%	98.8%	1.2%
年代	12~14歳	20	20	0
		100.0%	100.0%	0%
	15~19歳	125	125	0
		100.0%	100.0%	0%
年代	20~24歳	79	78	1
		100.0%	98.7%	1.3%
年代	25~29歳	36	34	2
		100.0%	94.4%	5.6%
性別×年代	男性 12~14歳	4	4	0
		100.0%	100.0%	0%
	男性 15~19歳	44	44	0
		100.0%	100.0%	0%
	男性 20~24歳	19	19	0
		100.0%	100.0%	0%
	男性 25~29歳	20	19	1
		100.0%	95.0%	5.0%
性別×年代	女性 12~14歳	16	16	0
		100.0%	100.0%	0%
	女性 15~19歳	81	81	0
		100.0%	100.0%	0%
性別×年代	女性 20~24歳	60	59	1
		100.0%	98.3%	1.7%
性別×年代	女性 25~29歳	16	15	1
		100.0%	93.8%	6.3%
属性	中学生	22	22	0
		100.0%	100.0%	0%
	高校生	90	90	0
		100.0%	100.0%	0%
	専門学校・短大などの学生	3	3	0
		100.0%	100.0%	0%
	大学生・大学院生	92	92	0
		100.0%	100.0%	0%
属性	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	13	11	2
		100.0%	84.6%	15.4%
属性	正社員・正職員	35	34	1
		100.0%	97.1%	2.9%
属性	専業主婦(夫)・家事手伝い	1	1	0
		100.0%	100.0%	0%
属性	無業者	4	4	0
		100.0%	100.0%	0%

- 全体で見ると、98.8%が「はい（献血を知っている）」と回答した。
- 年代別で見ると、「いいえ（献血を知らない）」と回答した人は20歳以上であった。

質問1-2 (質問1-1で「はい」を選んだ方) 知ったきっかけは何ですか (複数回答可)。



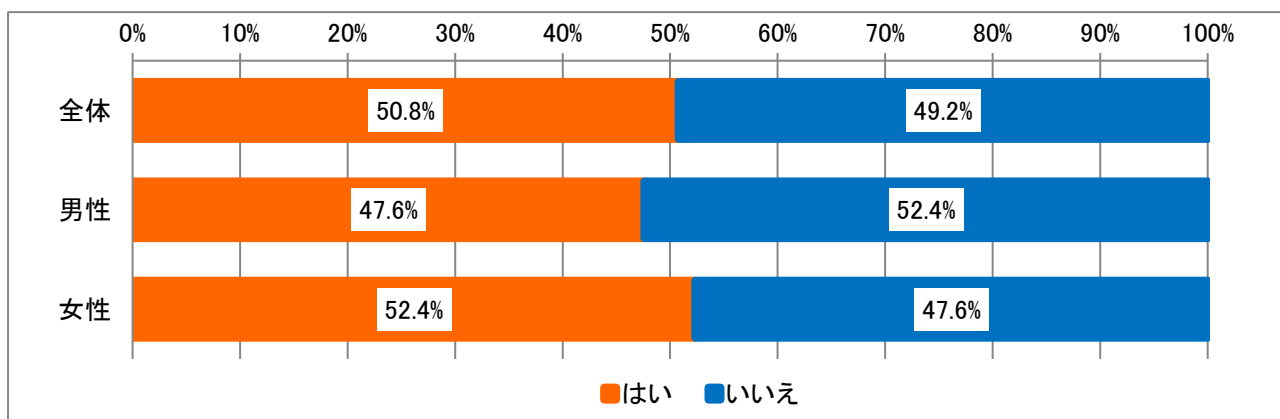
7 令和元年度 第1回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全体	テレビ	新聞	雑誌	ラジオ	SNS	インター ネット	街頭での 呼びかけ	ポスター	イベント	学校	家族・友人	その他
全体		255	92	28	17	9	33	17	150	99	13	105	85	11
		100.0%	36.1%	11.0%	6.7%	3.5%	12.9%	6.7%	58.8%	38.8%	5.1%	41.2%	33.3%	4.3%
性別	男性	85	39	15	9	5	14	7	50	34	6	39	22	5
		100.0%	45.9%	17.6%	10.6%	5.9%	16.5%	8.2%	58.8%	40.0%	7.1%	45.9%	25.9%	5.9%
	女性	170	53	13	8	4	19	10	100	65	7	66	63	6
		100.0%	31.2%	7.6%	4.7%	2.4%	11.2%	5.9%	58.8%	38.2%	4.1%	38.8%	37.1%	3.5%
年代	12~14歳	20	3	0	2	1	2	2	9	7	0	3	9	1
		100.0%	15.0%	0.0%	10.0%	5.0%	10.0%	10.0%	45.0%	35.0%	0.0%	15.0%	45.0%	5.0%
	15~19歳	125	50	16	8	5	21	8	71	51	5	47	48	6
		100.0%	40.0%	12.8%	6.4%	4.0%	16.8%	6.4%	56.8%	40.8%	4.0%	37.6%	38.4%	4.8%
	20~24歳	76	28	7	5	1	9	5	45	26	6	43	19	4
		100.0%	36.8%	9.2%	6.6%	1.3%	11.8%	6.6%	59.2%	34.2%	7.9%	56.6%	25.0%	5.3%
	25~29歳	34	11	5	2	2	1	2	25	15	2	12	9	0
		100.0%	32.4%	14.7%	5.9%	5.9%	2.9%	5.9%	73.5%	44.1%	5.9%	35.3%	26.5%	0.0%

※複数回答有り：回答数 659

- 全体で見ると、「街頭での呼びかけ」をきっかけとした割合が最も高かった。
- 男女別に見ても、「街頭での呼びかけ」をきっかけとした割合が最も高く、男女とも50%以上が回答した。
- 年代別に見ると、20~24歳では「学校」が献血を知るきっかけになった人も多かった。

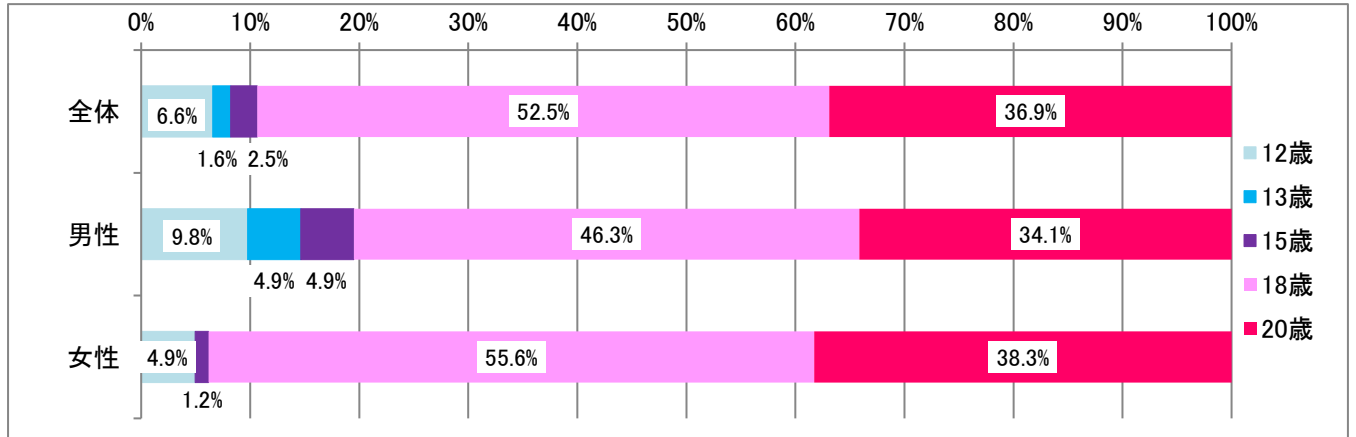
質問1-3 (質問1-1で「はい」を選んだ方) 献血は16歳からできることを知っていますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		254 100.0%	129 50.8%	125 49.2%
性別	男性	84 100.0%	40 47.6%	44 52.4%
	女性	170 100.0%	89 52.4%	81 47.6%
年代	12~14歳	20 100.0%	7 35.0%	13 65.0%
	15~19歳	125 100.0%	74 59.2%	51 40.8%
	20~24歳	75 100.0%	34 45.3%	41 54.7%
	25~29歳	34 100.0%	14 41.2%	20 58.8%
性別×年代	男性 12~14歳	4 100.0%	2 50.0%	2 50.0%
	男性 15~19歳	44 100.0%	26 59.1%	18 40.9%
	男性 20~24歳	17 100.0%	6 35.3%	11 64.7%
	男性 25~29歳	19 100.0%	6 31.6%	13 68.4%
	女性 12~14歳	16 100.0%	5 31.3%	11 68.8%
	女性 15~19歳	81 100.0%	48 59.3%	33 40.7%
	女性 20~24歳	58 100.0%	28 48.3%	30 51.7%
	女性 25~29歳	15 100.0%	8 53.3%	7 46.7%
属性	中学生	22 100.0%	9 40.9%	13 59.1%
	高校生	90 100.0%	52 57.8%	38 42.2%
	専門学校・短大などの学生	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%
	大学生・大学院生	90 100.0%	44 48.9%	46 51.1%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	11 100.0%	5 45.5%	6 54.5%
	正社員・正職員	33 100.0%	15 45.5%	18 54.5%
	専業主婦(夫)・家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	無業者	4 100.0%	1 25.0%	3 75.0%

- 全体で見ると、50.8%が「はい（献血は16歳からできることを知っている。）」と回答した。
- 年代別で見ると、15~19歳のグループのみ「はい」が「いいえ」を上回っていた。
- 属性別に見ると、中学生では「はい」が約4割、「いいえ」が約6割であったが、大学生・大学院生では16歳から献血できることを知っている人と知らない人の割合は同程度となった。

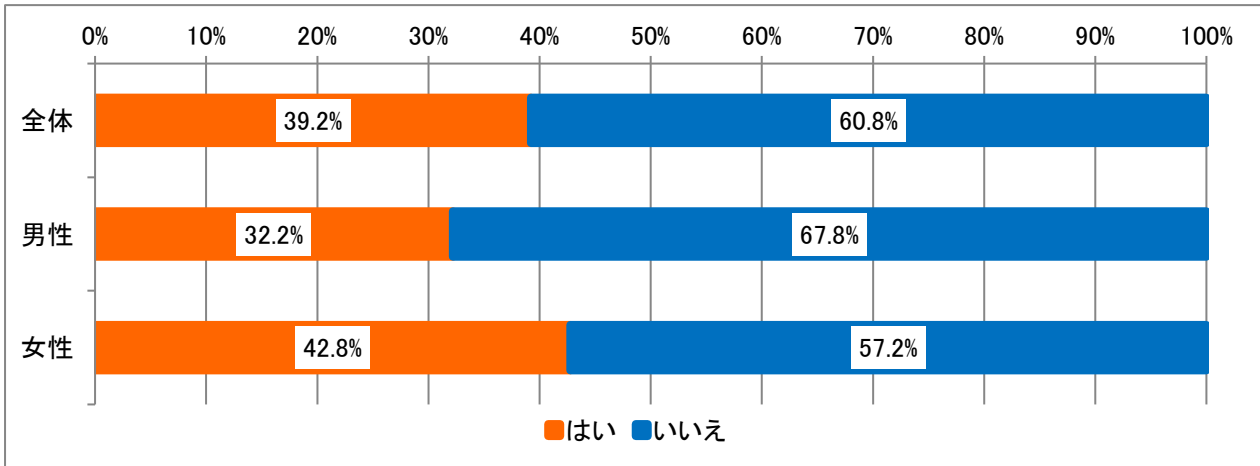
質問1-4 (質問1-3で「いいえ」を選んだ方) 献血できると思っていた年齢を教えてください



		上段:人数	下段:(%)								
		全体	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳
全体		122	8	2	0	3	0	0	64	0	45
		100.0%	6.6%	1.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	52.5%	0.0%	36.9%
性別	男性	41	4	2	—	2	—	—	19	—	14
		100.0%	9.8%	4.9%	—	4.9%	—	—	46.3%	—	34.1%
性別	女性	81	4	—	—	1	—	—	45	—	31
		100.0%	4.9%	—	—	1.2%	—	—	55.6%	—	38.3%
年代	12~14歳	13	1	—	—	—	—	—	4	—	8
		100.0%	7.7%	—	—	—	—	—	30.8%	—	61.5%
	15~19歳	49	2	2	—	1	—	—	28	—	16
		100.0%	4.1%	4.1%	—	2.0%	—	—	57.1%	—	32.7%
年代	20~24歳	41	4	—	—	2	—	—	21	—	14
		100.0%	9.8%	—	—	4.9%	—	—	51.2%	—	34.1%
年代	25~29歳	19	1	—	—	—	—	—	11	—	7
		100.0%	5.3%	—	—	—	—	—	57.9%	—	36.8%
性別×年代	男性 12~14歳	2	—	—	—	—	—	—	1	—	1
		100.0%	—	—	—	—	—	—	50.0%	—	50.0%
	男性 15~19歳	16	—	2	—	1	—	—	9	—	4
		100.0%	—	12.5%	—	6.3%	—	—	56.3%	—	25.0%
	男性 20~24歳	11	3	—	—	1	—	—	3	—	4
		100.0%	27.3%	—	—	9.1%	—	—	27.3%	—	36.4%
	男性 25~29歳	12	1	—	—	—	—	—	6	—	5
		100.0%	8.3%	—	—	—	—	—	50.0%	—	41.7%
性別×年代	女性 12~14歳	11	1	—	—	—	—	—	3	—	7
		100.0%	9.1%	—	—	—	—	—	27.3%	—	63.6%
	女性 15~19歳	33	2	—	—	—	—	—	19	—	12
		100.0%	6.1%	—	—	—	—	—	57.6%	—	36.4%
性別×年代	女性 20~24歳	30	1	—	—	1	—	—	18	—	10
		100.0%	3.3%	—	—	3.3%	—	—	60.0%	—	33.3%
性別×年代	女性 25~29歳	7	—	—	—	—	—	—	5	—	2
		100.0%	—	—	—	—	—	—	71.4%	—	28.6%
属性	中学生	13	1	—	—	—	—	—	4	—	8
		100.0%	7.7%	—	—	—	—	—	30.8%	—	61.5%
	高校生	37	1	2	—	—	—	—	20	—	14
		100.0%	2.7%	5.4%	—	—	—	—	54.1%	—	37.8%
	専門学校・短大などの学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大学生・大学院生	45	4	—	—	3	—	—	26	—	12
		100.0%	8.9%	—	—	6.7%	—	—	57.8%	—	26.7%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	6	—	—	—	—	—	—	2	—	4
	100.0%	—	—	—	—	—	—	33.3%	—	66.7%	
属性	正社員・正職員	17	2	—	—	—	—	—	9	—	6
		100.0%	11.8%	—	—	—	—	—	52.9%	—	35.3%
属性	専業主婦(夫)・家事手伝い	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—
		100.0%	—	—	—	—	—	—	100.0%	—	—
属性	無業者	3	—	—	—	—	—	—	2	—	1
		100.0%	—	—	—	—	—	—	66.7%	—	33.3%

全体で見ると、「18歳」と回答した割合が52.5%と最も高く、次いで36.9%が「20歳」と回答とした。

質問2 「はたちの献血」キャンペーンを知っていますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		260 100.0%	102 39.2%	158 60.8%
性別	男性	87 100.0%	28 32.2%	59 67.8%
	女性	173 100.0%	74 42.8%	99 57.2%
年代	12~14歳	20 100.0%	6 30.0%	14 70.0%
	15~19歳	125 100.0%	46 36.8%	79 63.2%
	20~24歳	79 100.0%	37 46.8%	42 53.2%
	25~29歳	36 100.0%	13 36.1%	23 63.9%
性別×年代	男性 12~14歳	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%
	男性 15~19歳	44 100.0%	13 29.5%	31 70.5%
	男性 20~24歳	19 100.0%	10 52.6%	9 47.4%
	男性 25~29歳	20 100.0%	5 25.0%	15 75.0%
	女性 12~14歳	16 100.0%	6 37.5%	10 62.5%
	女性 15~19歳	81 100.0%	33 40.7%	48 59.3%
	女性 20~24歳	60 100.0%	27 45.0%	33 55.0%
	女性 25~29歳	16 100.0%	8 50.0%	8 50.0%
属性	中学生	22 100.0%	8 36.4%	14 63.6%
	高校生	90 100.0%	32 35.6%	58 64.4%
	専門学校・短大などの学生	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%
	大学生・大学院生	92 100.0%	39 42.4%	53 57.6%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	13 100.0%	3 23.1%	10 76.9%
	正社員・正職員	35 100.0%	16 45.7%	19 54.3%
	専業主婦(夫)、家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	無業者	4 100.0%	1 25.0%	3 75.0%

- 全体で見ると、39.2%の人が「はたちの献血」キャンペーンを知っていた。
- 男女別で見ると、男性では32.2%が「はい」と回答したのに対し、女性は42.8%の人が「はい」と回答した。
- 年代別では、12~14歳は知っている人が30%であったが、15~19歳と25~29歳では37%近くまで上がり、20~24歳では47%近くの人が知っていた。

質問3 若い世代の献血を促進するために、国はどのような取組を行うことが効果的だと思いますか。

■学校での教育

- ・中学、高校などの保健の授業で献血についての項目を取り入れるのが効果的だと思います。私は献血についてのことをよく知りません。なので、血を抜くということに対して少し抵抗があります。このようなことはきっと私以外にも多くの方が思っていることだと思います。1人でも多くの人を助けられるように、多くの方が献血について10代の頃から、詳しく知れるような機会をつくるべきだと思います。
(女性/18歳/高校生)
- ・保健など学校の授業で取り扱う。でも、なぜ若い世代の献血が推進されるのかがわかるようにすべきと思う。献血される側のメリットなのか、献血する側のメリットなのか、それとも献血が国の役に立つのか、わかりやすく教えてほしい。(男性/17歳/高校生)
- ・献血に行くのとどのように社会貢献ができるか、メリットを若い世代にもっと広めていくべきだと思う。献血に行きたくなるようなメリットを知ると献血に興味を持つ人が増えるのではないかと思う。
また、私はついこの前に高校の生物の授業で献血が16歳からできることを知った。その前までは18歳からしか献血に行くことができないのだと思っていたので、若い世代で献血が可能になる年齢を知らない人もまだ多いと思う。さらに、そのことを知っていたとしてもどのような手順で献血をするのかは私もまだよくわからない。学校の授業で献血の意義や方法に触れるための機会を設けることで、献血に対する不安が解消されるのではないかと思う。(女性/16歳/高校生)
- ・小中学生に対する取組として、①献血を呼び掛けるポスターや作文のコンクールを行い、優秀な作品は表彰したり、実際に使用したりする。②今回のアンケートのように、若い世代の献血を推進するために、国はどのような取組を行うことが効果的かを考えてもらう授業をする。
高校生に対する取組として、①全国の高校に献血車が訪れ、生徒の献血を促す。その際、車両内に参考書や携帯電話を持ち込めることをアピールする。②高校1・2年生を対象に、自分も献血を通して社会に貢献できる年齢になったことや、血液がどのようにして患者さんのもとに届くさんのもとに届くのかを知ってもらえるよう、講師を派遣し、授業を行う。(女性/12歳/中学生)
- ・義務教育の保健授業において献血を科目に加え、奨励すること。(女性/18歳/高校生)
- ・交通安全教室みたいにみんなで献血について考える授業(ワークショップ)を実施する。(女性/13歳/中学生)
- ・義務教育など学校教育の中で献血について扱う時間を増やすこと(小学校課程の社会科や保健体育から)が効果的だと思う。その際には、献血に参加することで得られるメリット(簡易の血液検査結果がわかる、まれな血液型であることがわかるなど)についても教えるべきだと感じる。その上で、高等学校・専門学校・大学に献血カーを派遣すると、より深く献血について知った上で気軽に献血を受けられると思う。(女性/22歳/正社員・正職員)
- ・献血の歴史、体内の血液の必要量、献血で助かった命の事例、どんな病気にどれだけの献血を必要としているのかなど、わかりやすく中学の保健の教科書で説明してほしい。高校生は学校で先生と一緒に献血体験を試してみたらいいのかもしれない。駅や電車で献血のポスターを見かけることがないので貼った

らしいと思う。(女性/13歳/中学生)

- ・幼少期からの意識改革が効果があるのではないかと思ったりする。保育園や幼稚園、小学校、中学校などで赤十字の方々が定期的に身近な事例を挙げたり、必要性を伝える機会を作る事で、その子供達が献血できる年齢に達した時、進んで行くようになるのではないだろうか。(男性/17歳/高校生)
- ・学校で献血に関する啓発活動を活発に行うべきだと思います。(男性/26歳/無業者)
- ・献血の推進が進んでいない理由としては、献血の知識が若い世代に十分になく、身近でないことがあげられると思います。私自身も、献血自体は知っていましたが、献血方法などを知ったのは高校に入ってからでした。献血可能年齢未満の世代から献血の理解を促進することは献血をより身近に感じられるようにすることができ、未来の献血者を増やすことにつながるでしょう。従って、小学校にも教材やポスターの配布、説明会の実施等などの取り組みを行うことが効果的だと思います。さらに、可能であれば小学校や中学校に献血所や献血バスの見学を行う授業を取り入れることも、献血を身近に感じることに繋がると思います。(女性/17歳/高校生)

■知識の普及・重要性の周知

- ・献血への正しい理解の推進。例えばどのような病気の人、怪我の人が献血を必要としているのか、数字などを用いて説明する。どのくらいの量を献血しなければいけなくて、それが体にどのように影響するのか。特に女子の場合は生理などがあるので、どの時期にするべきなのか気になる。血液が汚かったら(ドロドロだったら?)献血しても意味がないと聞いたことがある。何がどの程度真実かは知らないが、自分が献血したのにも関わらずそのまま捨てられたら悲しい。献血できるのかそうでないのか、という検査だけでも先に受けられたら嬉しいと思う。(女性/23歳/大学生・大学院生)
- ・命の大切さと、医療の現場での血液の不足の現状、血液の不足からくる命と医療の危機を小さいうちから、学校で教えるのと、ポスターやテレビ、新聞、ネットで訴える。また、子育て世代にも注目して、検血の大切さを家庭で認識してもらえば、自然と子供も献血を考えるようになるのでは?(女性/23歳/正社員・正職員)
- ・私は、学校に時々、献血車が来ていたり、学校で教材が配られたりして「献血」というもの自体は知っていたけど、献血の方法や、かかる時間、献血不足などの問題点などは知らなかったので、今回の「3分でわかる献血のはなし」のビデオを観て、改めて知りました。自分は昨年、全身麻酔の手術を行い、その時は自分の血液をあらかじめ数回取っておくだけで済んだのですが、その時に初めて献血は大事なのだなと思いました。ただ、一般の大きな手術などを行ったことのない若い人たちは、献血の大事さや、献血はどんな役に立っているのかなどをあまり身近には「献血」を感じられていないのではないかと思います。なので、このような献血を行うことの重要性や、ビデオでも言っていた将来の献血不足などの問題点などを示し、「献血」という行為をもっと身近に感じてもらう取り組みをするべきだと思います。また、実際に献血によって助かった人や、現在献血を必要とする人のメッセージなどを載せ、献血をする必要性などをわかってもらうことも大切だと思います。(男性/16歳/高校生)
- ・若い世代が献血をしない理由として、多い理由の一つに、「関心がない」ということがあると考える。献血をすることで自分にどのようなメリットがあるのかという、損得勘定で考えることが多いと思われるからだ。若い世代が献血をすることで、どれだけの人が助かるのかということを啓発する必要がある。しかし、その重要性を理解しても、すぐに献血のために外出をしようという人は多くはないだろ

う。そこで、医療機関の健康診査や健康診断を受診する際に、受診者に対して献血を行うよう指導してみてもどうか。外出した際に、目的地に献血ができる場所がないと、なかなか献血をしようとはならない。もちろん献血が不可能な人も中にはいるので、医療機関内の連携が必要だが、少なからず効果はあると思われる。(男性/25歳/正社員・正職員)

- ・若い人の献血を推進するためには、まずは若者が正しい献血の知識を得ることが大切だと考えます。特に16歳から出来るといいながらも、学校で献血に対する啓発や教育といったものがほとんど無いように感じます。自分の高校にも献血バスが来ていましたが、周知活動などはポスター程度だったと思います。また、高校生が正しい献血の知識を得ることが必要だと思うので、保健指導の一環として、授業内で献血について取り上げるべきだと考えます。献血のイメージとしては、「痛そう」というのがあり、抵抗が大きいと考えます。正しい知識を持って自発的に献血を行える姿勢を養う必要があると考えます。また献血がある種のトレンドのような物になればいいと考えますし、やることに対して、もっとメリットがあることを提示できればいいと考えます。(男性/21歳/大学生・大学院生)
- ・献血がどのようなことをするのか、痛みはどれぐらいなのか、救える人はどのくらいいるのかをしっかりと広めることが大切であり、どのような人は献血できないのかも同時に広める必要がある。(女性/20歳/大学生・大学院生)

■イメージの転換（メリット・デメリットの周知）

- ・献血は手軽にできるものだということをアピール。母が献血ボランティアに積極的で、私も勧められますが、血を取られることが正直怖くてなかなか足を運ばません。(女性/20歳/大学生・大学院生)
- ・痛そうなイメージを払拭。(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・献血は痛くて、怖いという印象があるので、実際に学校などを年に何回か回って、どのようなものなのか説明すれば良いと思う。毎月献血に関する、広報誌を全国の学校に配布すれば良いと思う。(男性/16歳/高校生)
- ・献血するとどんな良いことがあるかを世に知らしめることだと思います。個人的には、時間がかかりそう、血を抜いたら栄養が細胞に行き届きにくくなりそう、というイメージがあります。しかし、献血するとお菓子がもらえたり飲み物を飲めたりすると聞いたので、近々ぜひ献血したいと思っています。(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・主に宣伝という面に特化して意見を出させていただきます。まず献血の宣伝は血液が足りてないという訴えのイメージが強すぎると思います。たしかにそれは事実だと思うのですが、それでは献血をする側にとってのメリットが明確ではありません。そこでそのイメージだけにならないためにも、より献血する側のメリットを推した広告を出すべきではないかと思います。そのようにすれば時間を割いてまで献血をしたいと思える人が増えると思います。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・腕に刺す痛みが一つのハードルとなっていると思うので、思ったほど痛くない、鋭いというより鈍い、というような実践した感覚を有名人の体験記などで伝えられれば、躊躇する人の背中を押せると思います。(男性/24歳/大学生・大学院生)

■広報活動

- ・献血アイドルでどのくらい効果が現れたのでしょうか？大勢が来場する大きいイベント(コンサート、

ライブ、プロ野球、Jリーグ、Bリーグ等)の会場に献血ブースを設けて、呼びかけを実施し、興味を持ってもらう。毎年行われる国体、来年の東京五輪でも可能ならばそこでもやると効果があるのでは。

(男性/28歳/正社員・正職員)

- ・現在、乃木坂46をイメージモデルとしているように、芸能人を宣伝に起用するというのは印象も残る上にとっつきやすいからとてもいいなと感じた。今の若い世代はあまりテレビを利用せず、情報をほぼSNSなどから得ているため、インスタグラムなどもっとSNS(YouTubeなどの広告)を活用した方が良かったと思った。他にも、YouTuberなどをお願いをして実際に献血をした感想などの動画をアップしてもらうなども活用した方がいいと思う。また、小さい子供たちは電車の広告など(スクリーン・ポスター共に)をよく見ている光景を目にするため、小さい頃からもっと献血を身近に感じてもらえるように電車広告などを活用することも効果的であると感じる。(女性/18歳/高校生)
- ・私は今まで献血はただ血を抜く場所だと思っていました。でも最近献血ルームには献血をした人が飲み物やお菓子を食べながら休憩できる場所があることを知りました。私の友達も、献血に行ったことがあるみたいで、そこでアイスを買ったということを知って私も行ってみたいと思うようになりました。最近Twitterなどでも友達と「献血デート」に行ってきたというツイートを目にするようになり、そのツイートを見て、ほかの友達も真似して献血に行ってみたりしていました。このことから、私は、若い世代の人は献血ルームは血を抜くだけの場所という意識が強く、休憩所ではお菓子などを食べることができるということを知らないのかもしれないと思いました。なので、献血を広める為にもまずそのきっかけとして献血をした人へのささやかなお礼としてお菓子などがあることを広めてみるのはどうでしょうか。また、献血をした若い世代の人にTwitter等で「献血をして人助けをすることが出来るし、お礼としてお菓子なども無料で食べられる」などをツイートしてもらい、それを見てその人の知人などが献血に行くように促すなどをすれば、献血が若い世代にも広がると思います。(女性/16歳/高校生)
- ・献血についてのCMを作って放映し、若い世代への献血に対する認知度を高める。また、そのCMは若い世代がよく見るような時間帯やよく見る番組の間に使用し、人気の俳優などをモデルとすれば良いと思う。また、テレビだけではなく、InstagramやYouTube、Twitterなど若い世代の人達がよく使うようなアプリの広告にも取り入れるべきだと思う。認知度を高めるだけでなく、行動に移しやすいようにするため、祭りや有名な観光地などに献血ブースをつくる。また、「献血なんて行きにくい。」と思う人のために、献血ブースをデコレーションしたり、今流行りの「インスタ映え」するようにつくると良いのではないかな。(女性/15歳/高校生)
- ・アニメとのコラボレーションは効果があると思う。(女性/25歳/正社員・正職員)
- ・YouTubeなど若者が使う頻度が高いサイトにCMを流すことや歌手やK-POPとのコラボなどをすると注目が集まると思う。また献血をするとポスターなどのグッズを貰えるとやる人も増えると思う。(女性/13歳/中学生)
- ・ユーチューバーとタイアップする。献血アプリをつかって、ポイント貯めたり献血スケジュール分かったり今まで献血した血の総量が見れるようにする。献血のマスコットキャラをハロウィンに出没させる。(女性/17歳/高校生)
- ・CM、InstagramやTwitterなどで若者の情報収集の場での広告活動をし、イメージモデルとして、人気のモデルやアイドルを起用する。(女性/17歳/高校生)

- ・私の住んでいる茨城県では大洗を舞台としたアニメーション作品である「ガールズ&パンツァー」とのコラボレーションを積極的に行っており、献血をするとグッズがもらえるようになっている。これがかなり人気で、大学の友人や教室などでそのようなグッズを持っているのをよく見かける。私自身も行くと思ったきっかけなのでアニメ作品とのコラボは非常に効果的だと思う。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・献血に関するパンフレットを駅、図書館、学校で配布する。中学校、高校で献血について授業で学ぶ機会を増やす。若い世代向けに献血ルーム、献血バスの見学会を開く。(女性/15歳/中学生)
- ・まずは、目にすることが第一歩だと思うので SNS を使った周知。あとはいかに簡単な手順でできるかをわかってもらうこと。(男性/26歳/正社員・正職員)
- ・献血がどうして行われているのか、そのメリットは何か、ということをもっと若い世代に発信する必要を感じています。たとえば献血をするという少しの手間で救われる命があるかもしれないということ(行為の社会貢献性)の認知拡大や、献血協力者への特典(短期的な利点)等の提供があれば、献血に協力する人が増えるのではないかと思います。国の取組としては、これまで以上に医療機関等と連携して、街頭での広報活動を行うことなどを提案します。(男性/20歳/大学生・大学院生)
- ・若年層で献血が進まない理由として、若者にとって「血を抜く」ことに強い抵抗がある点が挙げられると思う。新宿や渋谷など若者の集まる場所へ行けば必ず献血の呼びかけをされている方がおり、SNS 等においても芸能人など多くのインフルエンサーが献血を呼び掛けている。そもそも献血の存在自体、大半の人が小中学校で学習するので知らないわけがない。ではなぜ普及しないのかというと、時間的に余裕がないなどといった理由もあるが、根本的には「血を抜く」ことへの抵抗、一種の恐怖感があるのだと思う。このような潜在的な献血へのマイナスイメージを払拭するには、献血が安全で親近感を感じられるような PR をすべきである。特に思うのが献血の PR に「赤」が多すぎることだ。献血なので仕方のない面もあるが、あからさまに血を連想させるのは決してプラスではない。ピンクやオレンジといった他の暖色系の色を用いたり、あえて心理的に安心感を与える寒色系の色を用いるのも効果的ではないかを感じる。長年にわたり献血の PR に使用してきたデザインを大幅に変更することは大胆な改革であるが、思い切ったイメージ革新を図れば間違いなく結果が出るのではないだろうか。(男性/19歳/大学生・大学院生)

■インセンティブの付与

- ・献血をした人にサービスや限定品などを提供するのが効果的だと思います。人助けやボランティア精神頼みでは限界があります。献血をする人、受ける人、両方にメリットがあると献血者数が増加すると考えます。(男性/29歳/正社員・正職員)
- ・あまりよくないとは思いますが、献血をしたら何かが割引になるといったチケットを発行する。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・ショッピングモールや映画館、駅など暇な待ち時間で出来るような場所に献血ルームを設置すること。その上で、キャンペーンをそのショッピングモールや映画館、駅などで割引サービスやポイントカード制などにして、何回でも行きたいようにする。また、そのキャンペーンなどをツイッターや Instagram などの SNS でも広報し、認知度を高めていく必要がある。(男性/27歳/正社員・正職員)
- ・スタバのチケットなどくれるのもうれしい。(女性/20歳/大学生・大学院生)

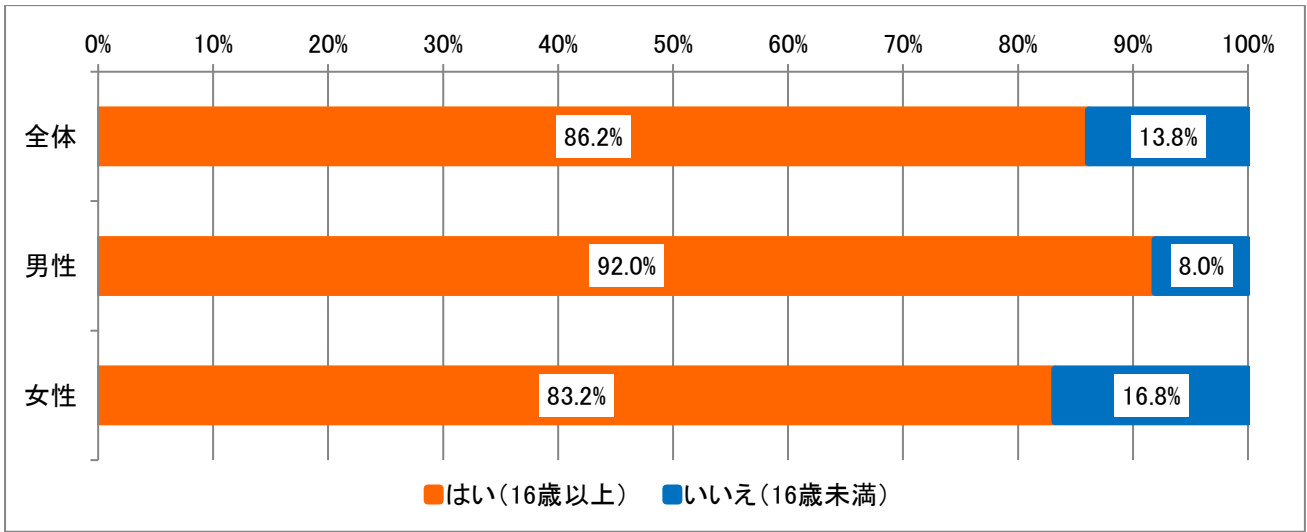
- ・一年間で一定の回数献血をしたら、映画鑑賞の一回無料などの特典をあげるのはいかがでしょうか。映画鑑賞は例えて他にはスポーツの観戦チケットや、特定の施設への入場無料券などを貰えると、ポスターを使って宣伝してみるのはいかがでしょうか。そうすると若い人は行ってみようと思い、1回献血をしに来ると思います。その時に献血の大切さを知ってもらうための動画を流して、献血の大切さを知ってもらうべきだと思います。しかし、それだけでは不十分だと思います。だから、学校からの呼びかけも合わせてするとさらに効果があると思います。もし、このような取組をしたら自分だったら献血に行くと思います。(男性/13歳/中学生)
- ・献血は血液を提供するボランティアだと、参考ウェブサイトから分かりました。ただ無償で集まらないのなら有償にしたら集まるのではないかと思います。献血の理念とはかけ離れてしまうかもしれませんが、理念を貫き通すより血液量を確保することの方が優先順位が高いように感じました。具体的な取り組みについてですが、献血することで税金の支払いなどが優遇される、あるいは多くの人にとって有用なサービスが受けられるという特典をつけるのはいかがでしょうか。例えば、献血をすることで保険料が低くなれば、保険料を払っている世代にとってはお得に感じられる人も出てくると思います。また宣伝方法としては明細書が入っている封筒に「献血すると保険料が安くなる！あなたの血液で助かる人がいます、詳しくはこちらから→(QRコードから詳細な情報検索可能にする)」等と印刷すれば一石二鳥ではないかと思います。または献血をすることで公共交通機関にお得に乗れるようにするという案もあります。宣伝方法は中吊り広告や車内の電子広告を使えば多くの人に知らせることができると思います。資金は今宣伝に使っている方々を減らすあるいは変えることで作れると思います。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・地域商品券の配布。昔、血をお金で買い取っていたと聞いたことがある。現金で血液を購入するのが時代に即していないのなら、現金の給付を復活させるのは、そもそもの解決策にならないだろう。しかしながら、現在のお菓子や飲み物と言った現物、献血後の休憩といったサービスでは、献血する魅力がない。地域のみで使用できる商品券を対価として付与することで、地域は若い世代の顧客を獲得でき、若い世代は金銭的メリットを得られる。(男性/28歳/正社員・正職員)
- ・ポイントカード制でいろんな商品と交換できるようにする。(女性/21歳/大学生・大学院生)

■行政や公的機関からの働き

- ・SNSアカウントの開設。例えば、首相官邸公式 Instagram のように、ポップで若者に親しみやすい媒体で献血の協力を呼びかける。初心者は、行きたくてもどんな雰囲気なのか分からず、怖くて行けない方もいらっしゃると思います。そこで、公式アカウントを使って、「献血協力者にとってのメリット」「献血バス、ルームの中の様子」を明確に伝える必要があると思います。(男性/17歳/高校生)
- ・全国の高等学校と連携し、学校に献血カーを呼び、集団で献血を行う取り組み。(女性/17歳/高校生)
- ・高校で献血できる血液かを検査して提供できる血液であるならば献血を義務化すればいいと思う。(女性/17歳/高校生)
- ・行政機関を通して、献血の必要性が呼びかけられた記憶がないので、政府公認としてキャンペーンなどをすると良いと思う。献血の必要性や、献血の仕方、方法などが知れ渡っていないように感じるので、その詳細を発信する機会があれば良いと思う。(女性/15歳/高校生)
- ・一定期間献血に協力してもらう代わりに、その者には安定した生活が約束されるというシステムを作

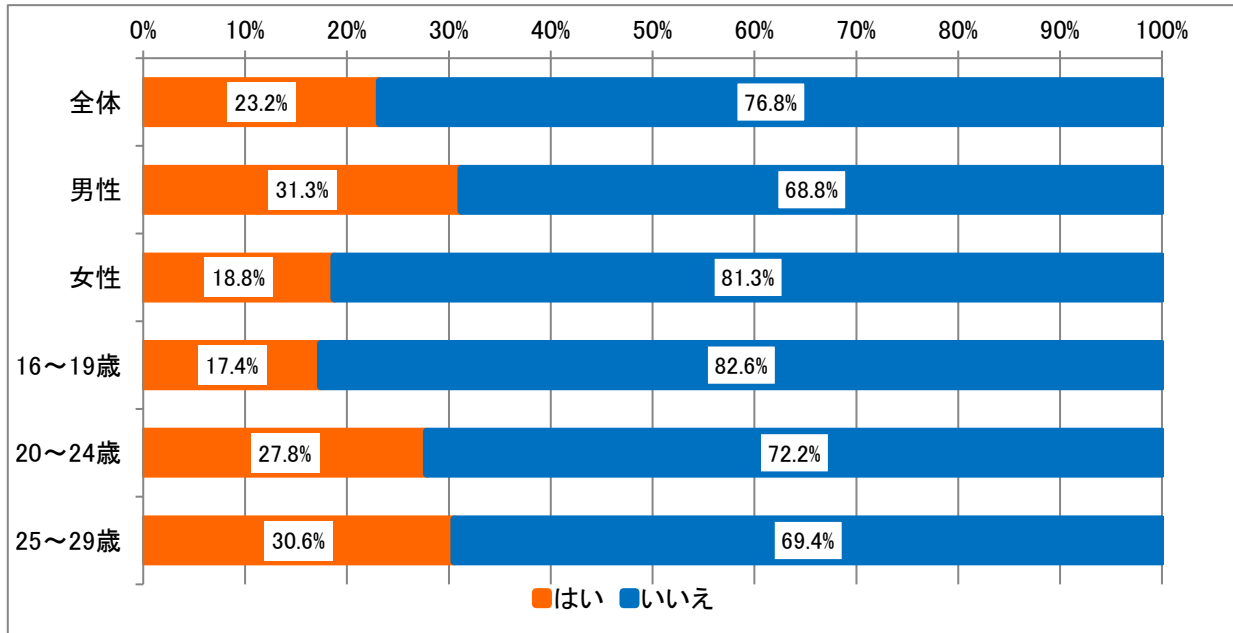
ったり、抗体を持たない黄金の血液と呼ばれているものを持つ者が受ける特別な待遇みたいな献血のアルバイトを作ったりする。(男性/16歳/高校生)

質問4 あなたは16歳以上ですか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい (16歳以上)	いいえ (16歳未満)
全体		260	224	36
		100.0%	86.2%	13.8%
性別	男性	87	80	7
		100.0%	92.0%	8.0%
性別	女性	173	144	29
		100.0%	83.2%	16.8%

(質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方)
 質問5①-1 献血をしたことはありますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		224	52	172
		100.0%	23.2%	76.8%
性別	男性	80	25	55
		100.0%	31.3%	68.8%
性別	女性	144	27	117
		100.0%	18.8%	81.3%
年代	16～19歳	109	19	90
		100.0%	17.4%	82.6%
	20～24歳	79	22	57
	100.0%	27.8%	72.2%	
	25～29歳	36	11	25
	100.0%	30.6%	69.4%	
性別×年代	男性 16～19歳	41	11	30
		100.0%	26.8%	73.2%
	男性 20～24歳	19	6	13
		100.0%	31.6%	68.4%
	男性 25～29歳	20	8	12
		100.0%	40.0%	60.0%
女性 16～19歳	68	8	60	
	100.0%	11.8%	88.2%	
女性 20～24歳	60	16	44	
	100.0%	26.7%	73.3%	
女性 25～29歳	16	3	13	
	100.0%	18.8%	81.3%	
属性	高校生	76	11	65
		100.0%	14.5%	85.5%
	専門学校・短大などの学生	3	1	2
		100.0%	33.3%	66.7%
	大学生・大学院生	92	25	67
		100.0%	27.2%	72.8%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	13	5	8
	100.0%	38.5%	61.5%	
正社員・正職員	35	10	25	
	100.0%	28.6%	71.4%	
専業主婦(夫)、家事手伝い	1	0	1	
	100.0%	0.0%	100.0%	
無業者	4	0	4	
	100.0%	0.0%	100.0%	

- 全体で見ると、献血をしたことがある人は52人(23.2%)であった。
- 男女別で見ると、献血をしたことがある男性は31.3%(男性全体80人中25人)、女性は18.8%(女性全体144人中27人)であり、男性の方が献血をしたことがあると回答した割合が高かった。
- 年代別に見ると、高い年代ほど献血をしたことのある人が多い傾向が見られた。

(質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方)

質問5①-2 (質問5①-1で「はい」を選んだ方)

初めて献血をしたきっかけと場所を教えてください。

□ 初めて献血をしたきっかけ

■ 学校内での機会

- ・大学に献血の車が来ていたから。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・文化祭に献血車が来ていて、お菓子を配っていたため。(女性/17歳/高校生)
- ・大学の献血実行委員会が呼びかけをしていた事。(男性/17歳/大学生・大学院生)
- ・高校で献血の時間があつた。(女性/23歳/大学生・大学院生)
- ・大学に献血カーが来ているのを見て、母がRhマイナスだったこともあり、自分も献血してみようかなと思ったから。(女性/22歳/正社員・正職員)
- ・授業の空きコマを有意義に活用したく、社会貢献もかねて献血に協力した。同期や後輩とも集って参加したので、終始リラックスして過ごせた。駅近の献血ルームへはなかなか足が延びなかったが、大学への出張サービスは集団で行けるので効率的かもしれない。(男性/25歳/大学生・大学院生)
- ・学校開催でのイベント。(男性/17歳/高校生)
- ・大学のボランティアサークルで献血の呼びかけをする機会があり、まず自分が献血をしようと思ったため。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・大学の敷地内に献血カーが来ていたこと。(女性/18歳/大学生・大学院生)
- ・医療・福祉系の大学に通っていたため、献血車が定期的に大学に来ており、休憩や空き時間に大学の同級生が当然のように行っていた(大学の性質上、一定数必ず、献血に行く人がいた)ことが理由だった。そして、飲み物やカレンダーやお菓子がもらえることも大学生としては、非常に嬉しかった記憶がある。(男性/24歳/正社員・正職員)

■ 献血に対する興味や貢献

- ・興味があつたため。友人と共に。(男性/18歳/高校生)
- ・献血がどういったものか気になったから。(女性/20歳/大学生・大学院生)
- ・AB型ということもあり、献血に貢献したいという誤解混じりの意識と、興味からでした。(男性/24歳/大学生・大学院生)
- ・人の役に立つから。(男性/27歳/正社員・正職員)
- ・20歳になったらやろうと思っていた。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・献血できるのを楽しみにしていて、16歳になったから。(女性/17歳/高校生)
- ・久々に休日ができ、ネットで「休日 有意義 過ごし方」と検索したら、項目の中に献血があつたため。それ以外にも、母の影響で幼少期から興味があつたため。(男性/25歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)

■ 家族や友人による紹介

- ・高校2年の時に友人から献血の体験を語られ紹介されたことがきっかけである。献血センターの職員の方々が大変丁寧に優しく、是非あなたも体験してほしいという趣旨だった。(男性/23歳/大学生・大学院生)
- ・前から興味があって、ちょうど友達がしてみたいと言っていたので一緒に行くことにしました。(女性/17歳/高校生)
- ・友人から話を聞いたことがあり、後日違う友達といたときに一緒に行こうという流れになった。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・友達が献血をしたことを聞いて、私でも出来るんだ/お菓子がもらえるらしいから行こうと思った。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・私が小さいころから、一緒に買い物にいくと母がよく献血に行っていたから。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・親に勧められて。(女性/17歳/高校生)
- ・友達に誘われて。(女性/17歳/高校生)
- ・両親がしているため年齢が来たらやろうと思っていた。(女性/25歳/正社員・正職員)

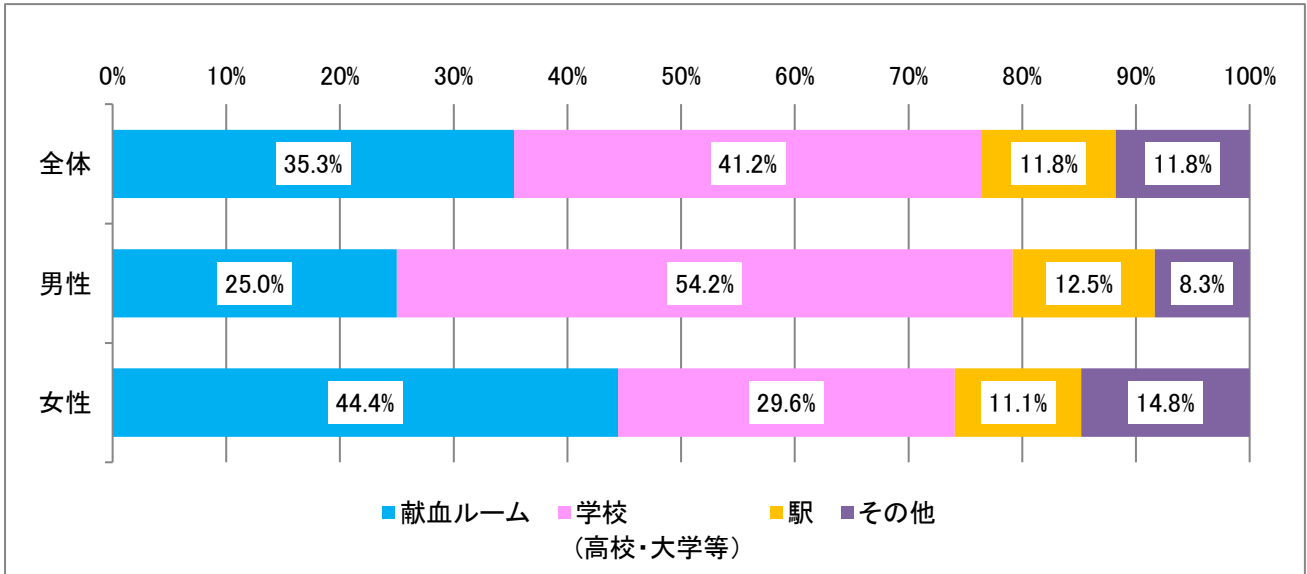
■ 献血関連のイベント・キャンペーン等の広報活動

- ・献血できるようになったので。コミックマーケットコラボのポスターが欲しかったので。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・自分が好きなアニメとのコラボキャンペーン。(男性/17歳/高校生)
- ・はたちの献血というキャンペーンを聞いて。(女性/23歳/正社員・正職員)
- ・けんけつちゃんが好きだから。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・献血のホームページ。16歳の誕生日に献血しようと昔から決めていたから。(女性/16歳/高校生)。

■ その他

- ・血液型の証明書が必要だった。(女性/24歳/大学生・大学院生)
- ・この青少年意見募集事業がきっかけで行こうと決めた。その前にも大学に献血カーがよく来るので関心があったが、なかなか勇気を出せずにいた。(男性/18歳/大学生・大学院生)
- ・自分の血液型を調べるため。(男性/19歳/専門学校・短大などの学生)
- ・ユース特命報告員の報告で献血が取り上げられていたから。(女性/16歳/高校生)
- ・青年海外協力隊への応募を考えており、貧血の有無が重要視されると聞いたので、自分の状態を知りたいと思い、参加した。(女性/24歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)
- ・偶然、献血のバスを見かけて時間があつたから入ってみた。(男性/27歳/正社員・正職員)
- ・献血ルームはお菓子が食べ放題だと聞いたから。(女性/20歳/大学生・大学院生)

□ 初めて献血をした場所



上段: 人数 下段: (%)		全体	献血 ルーム	学校 (高校・大学 等)	駅	その他
全体		51	18	21	6	6
		100.0%	35.3%	41.2%	11.8%	11.8%
性別	男性	24	6	13	3	2
		100.0%	25.0%	54.2%	12.5%	8.3%
	女性	27	12	8	3	4
		100.0%	44.4%	29.6%	11.1%	14.8%
年代	16～19歳	19	9	6	3	1
		100.0%	47.4%	31.6%	15.8%	5.3%
	20～24歳	22	7	10	2	3
		100.0%	31.8%	45.5%	9.1%	13.6%
	25～29歳	11	2	5	1	3
		100.0%	18.2%	45.5%	9.1%	27.3%

- 全体で見ると、41.2%が「学校（高校・大学等）」、35.3%が「献血ルーム」と回答した。
- 男女別で見ると、男性の場合は54.2%が「学校（高校・大学等）」、次いで25.0%が「献血ルーム」と回答したのに対し、女性の場合は44.4%が「献血ルーム」、29.6%が「学校（高校・大学等）」と回答し、男性よりも女性の方が「献血ルーム」と回答する割合が高かった。

(質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方)

質問5①-3 (質問5①-1で「いいえ」を選んだ方)

献血をしたことがない理由を教えてください。

■献血への不安や恐怖(衛生面も含む)

- ・献血をよく知らず、危険性や不安だけが私の中で先行してあったから。(女性/18歳/高校生)
- ・すごく怖いイメージがあります。(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・親に献血の針で病気が感染した人がいるとの話を聞いて本当かどうかは分からないが、その影響で献血の安全面が不安だから。(女性/24歳/正社員・正職員)
- ・注射が痛くて怖いからです。(女性/24歳/大学生・大学院生)

■献血への知識不足

- ・どこで献血をしているかわからないから。(女性/27歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)
- ・16歳からできると知らなかったから。(女性/16歳/高校生)
- ・年齢的に献血はまだ出来ないと思っていたから。また、献血ルームには大人が多い様子で、近寄り難いイメージがあったから。(女性/17歳/高校生)
- ・献血に対しての知識が薄く、少し怖いイメージがあるから。(女性/17歳/高校生)

■きっかけ、興味不足

- ・特に行こうと思う動機がなく、あまり血液をただ抜かれるということに良い印象がないから。(男性/17歳/高校生)
- ・献血を促す機会に巡り合えなかったため。(男性/22歳/正社員・正職員)
- ・わざわざ行く必要を感じなくて、どんな場所にあるのか、どんな雰囲気なのかもわからないから。
(女性/20歳/大学生・大学院生)

■健康面の理由

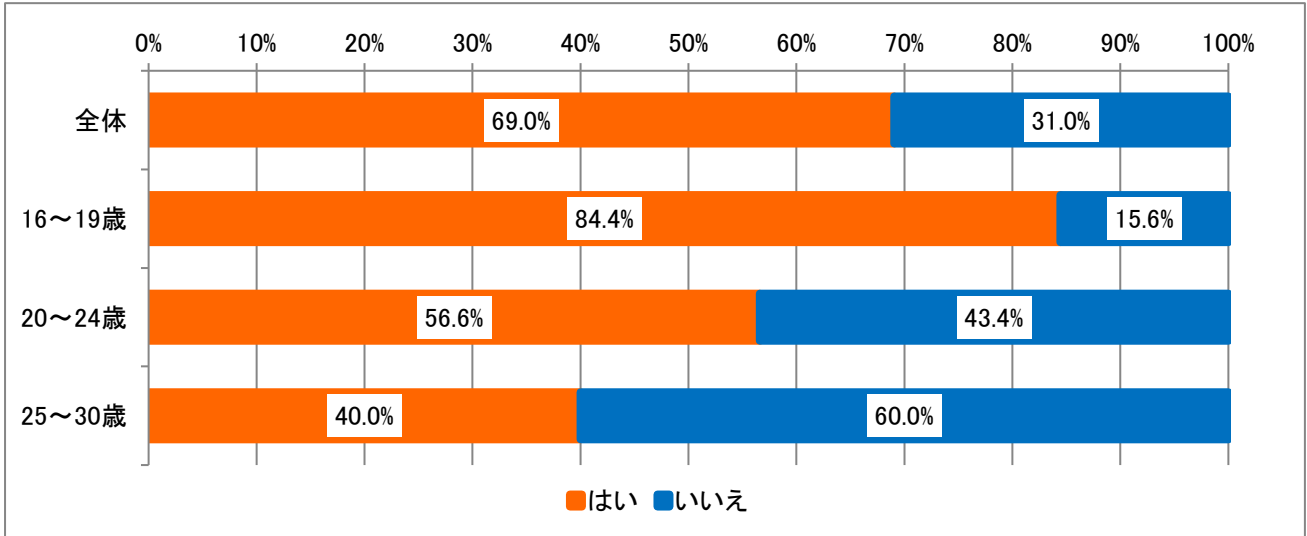
- ・献血をしたいとずっと思っているが、普段から貧血であり、献血できるほどの血液を保持していないから。(女性/16歳/高校生)
- ・検診の採血でも体調が悪くなるため。(男性/26歳/正社員・正職員)
- ・以前最寄り駅の公民館で献血を行っており、献血カードまで作成したのですが、血液濃度が足りず行えませんでした。(女性/17歳/高校生)
- ・薬を服用している期間が一年の大半を占めるため。また、注射がとても苦手なため。健康診断での採血ですら終わるとくらくらするので、献血ほどの大量の血液をとることに耐えられなさそうだから。(女性/24歳/大学生・大学院生)

■その他

- ・親が以前慢性の貧血が原因で献血をしないようにと勧告され、自分も献血しないほうがいいのではと考えていました。また献血センターまでの距離が遠いこともわざわざ電車に乗ってまで献血しに行こうという気持ちになれないのも要因です。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・私は、駅前やデパートの前などで献血をすることの出来る車を何度か見かけていました。その度に、何人もの人が献血しており、他人がやってるなら、自分はやらなくていいと思ひ献血を避けており献血はしたことはありませんでした。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・わざわざする時間がない。(女性/19歳/大学生・大学院生)

(質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方)

質問5①-4 (質問5①-1で「いいえ」を選んだ方) 今後献血をしてみたいと思いますか。

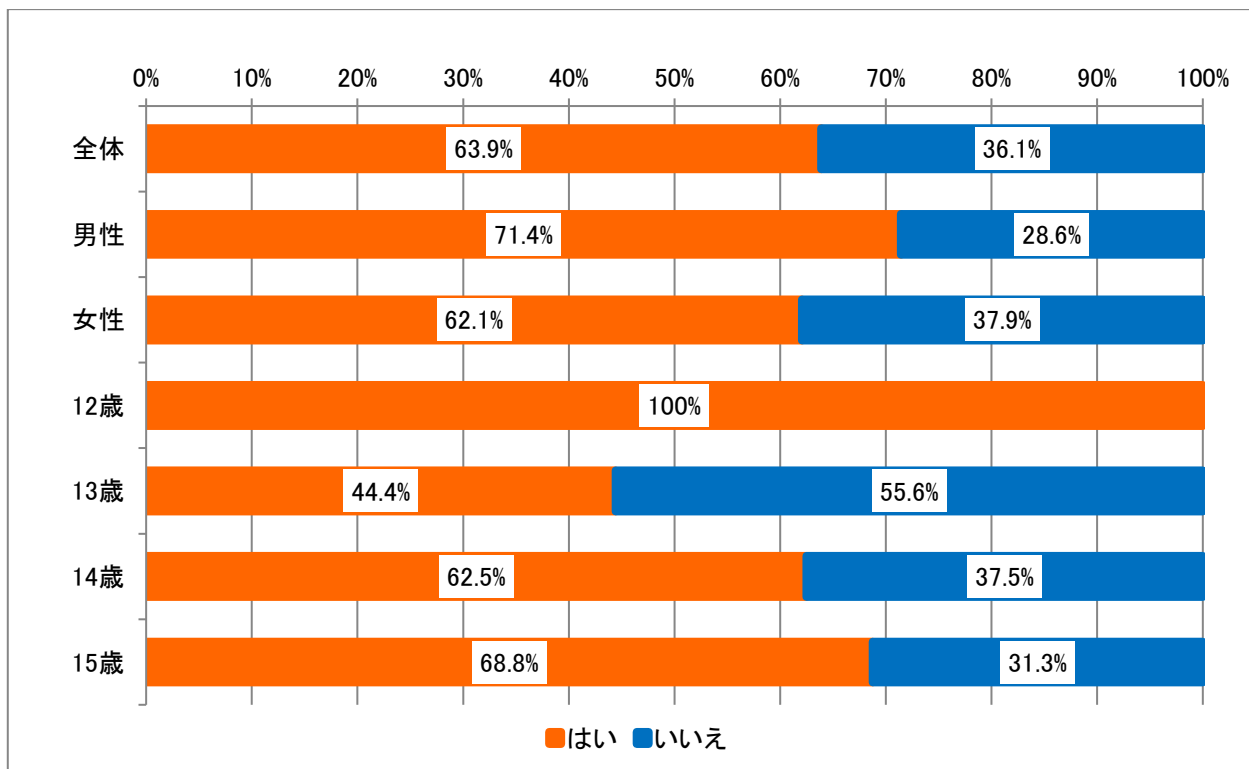


上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		168	116	52
		100.0%	69.0%	31.0%
性別	男性	54	36	18
		100.0%	66.7%	33.3%
性別	女性	114	80	34
		100.0%	70.2%	29.8%
年代	16~19歳	90	76	14
		100.0%	84.4%	15.6%
	20~24歳	53	30	23
	100.0%	56.6%	43.4%	
	25~29歳	25	10	15
		100.0%	40.0%	60.0%
性別×年代	男性 16~19歳	30	24	6
		100.0%	80.0%	20.0%
	男性 20~24歳	12	8	4
		100.0%	66.7%	33.3%
	男性 25~29歳	12	4	8
		100.0%	33.3%	66.7%
女性 16~19歳	60	52	8	
	100.0%	86.7%	13.3%	
女性 20~24歳	41	22	19	
	100.0%	53.7%	46.3%	
女性 25~29歳	13	6	7	
	100.0%	46.2%	53.8%	
属性	高校生	65	56	9
		100.0%	86.2%	13.8%
	専門学校・短大などの学生	2	1	1
		100.0%	50.0%	50.0%
	大学生・大学院生	63	41	22
		100.0%	65.1%	34.9%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	8	5	3
	100.0%	62.5%	37.5%	
正社員・正職員	25	11	14	
	100.0%	44.0%	56.0%	
専業主婦(夫)、家事手伝い	1	0	1	
	100.0%	0.0%	100.0%	
無業者	4	2	2	
	100.0%	50.0%	50.0%	

- 献血をしたことがない人でも、全体の69.0%が「はい(今後献血をしてみたい)」と回答した。
- 年代別で見ると、低年齢であるほど今後献血をしてみたいと回答する人が多かった。
- 属性別に見ると、高校生の86.2%が「はい」と回答し、今後の献血への興味が高い傾向がみられた。

(質問4で「いいえ(16歳未満)」と回答した方)

質問5②-1 16歳になったら献血をしてみたいと思いますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		36 100.0%	23 63.9%	13 36.1%
性別	男性	7 100.0%	5 71.4%	2 28.6%
	女性	29 100.0%	18 62.1%	11 37.9%
年齢	12歳	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%
	13歳	9 100.0%	4 44.4%	5 55.6%
	14歳	8 100.0%	5 62.5%	3 37.5%
	15歳	16 100.0%	11 68.8%	5 31.3%

○ 全体で見ると、「はい(今後献血をしてみたい)」と回答する人は63.9%と高い傾向がみられた。

(質問4で「16歳未満」と回答した方)

質問5-2 上記を選んだ理由を教えてください。

「はい」と回答した方の主な意見

■社会貢献

- ・よく、街頭などで、O型の血液が不足しているなどのお知らせをよく目にします。私自身協力したい気持ちは山々なのですが、年齢が達していないことや、体が弱く、貧血になってしまうのではないかとという不安から見て見ぬふりをしてきました。今年16の誕生日を迎えるのを期に、社会貢献の第一歩として、献血をやってみたいと思いました。(女性/15歳/高校生)
- ・輸血が必要な時はどのような時なのか調べてみると、病気や薬の影響で十分に血液をつくることができなくなったり、事故や手術、お産などで大量出血した時に必要になるそうだ。これらの事柄は意外と自分たちの身の回りに起こりうる可能性の高いものばかりだと思う。交通事故などは特にそうだ。自分にも輸血が必要な時がある可能性があるならば、今、血液を必要とする人のために献血をすることは大切なことだと思う。だから、僕は16歳になったら、献血に行ってみたいと思った。(男性/15歳/高校生)
- ・人の役に立てるし、大切な人の健康を守りたいからです。(女性/14歳/中学生)

■知識面

- ・はたちの献血のページを見て、平均約3000人ほどが輸血を必要としていることに驚いた。また、献血の所要時間は15分ほどと思っていたより短いことを知ったことなどが理由だ。(男性/14歳/中学生)
- ・献血がどのようなものか知りたいからです。それだけではなく、自分が献血をすることによって、一人でも多くの人を救いたいからです。(女性/12歳/中学生)
- ・以前は献血についてあまり知識がなく、献血によって多くの人を助かることは知っていたが、「献血をすることで病気に感染したり、体調が悪くなるのでは」という漠然とした不安があった。しかし、今回はたちの献血のホームページなどで献血ルームや献血バスでは献血をする人が安全、快適に献血をできるように知られていることを知り、16歳になったら家族や友人と一緒に訪れたいと思った。(男性/15歳/高校生)

■その他

- ・16歳の誕生日に、記念としてやってみたい。(女性/12歳/中学生)
- ・自分たちの学校は献血するとたくさんお菓子がもらえるから。(女性/15歳/高校生)

「いいえ」と回答した方々の主な意見

■知識面

- ・怖いし献血をしても自分の利益にならないと思うし、その血がどのようにして使われるのかわからないから。(男性/13歳/中学生)
- ・痛そう。どのような用途で自分の血液が使われるかわからないから。どのような手順で献血をするのか

わからないから。お金がかかるのか？（女性/15歳/高校生）

- ・16歳で献血をしても体の健康に影響がないのか、という知識が乏しく、まだ献血をするという決断に至れないから。（女性/15歳/高校生）

■恐怖

- ・何となくこわいと思う。（女性/15歳/高校生）
- ・献血ルームで多くの人を見かけたので、たぶん大丈夫だと思うけど、詳しく教えてもらっていないので、何となくこわい。（女性/13歳/中学生）

■健康面

- ・体が小さく、献血したいが貧血になっては困るから。（男性/15歳/高校生）